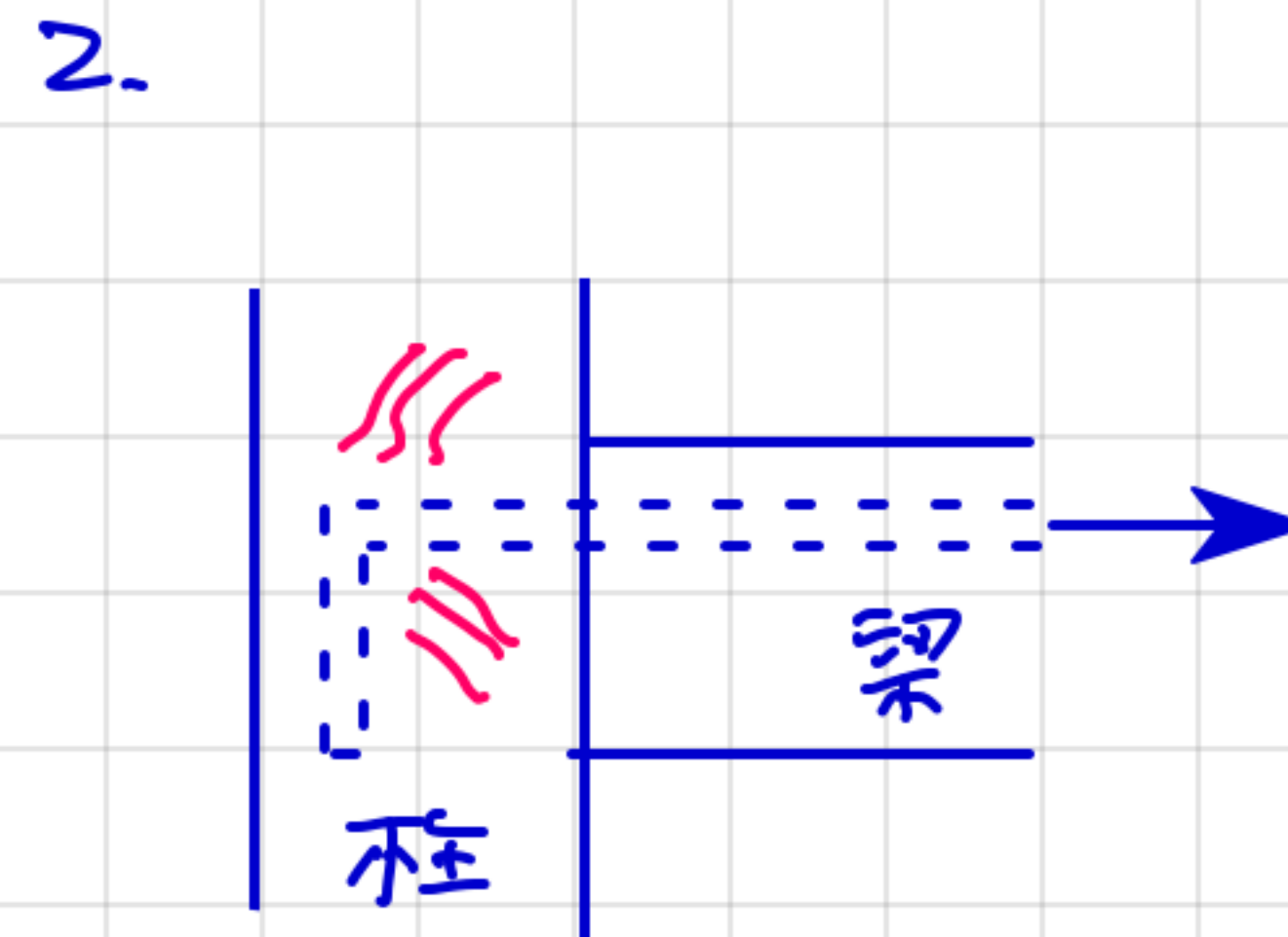
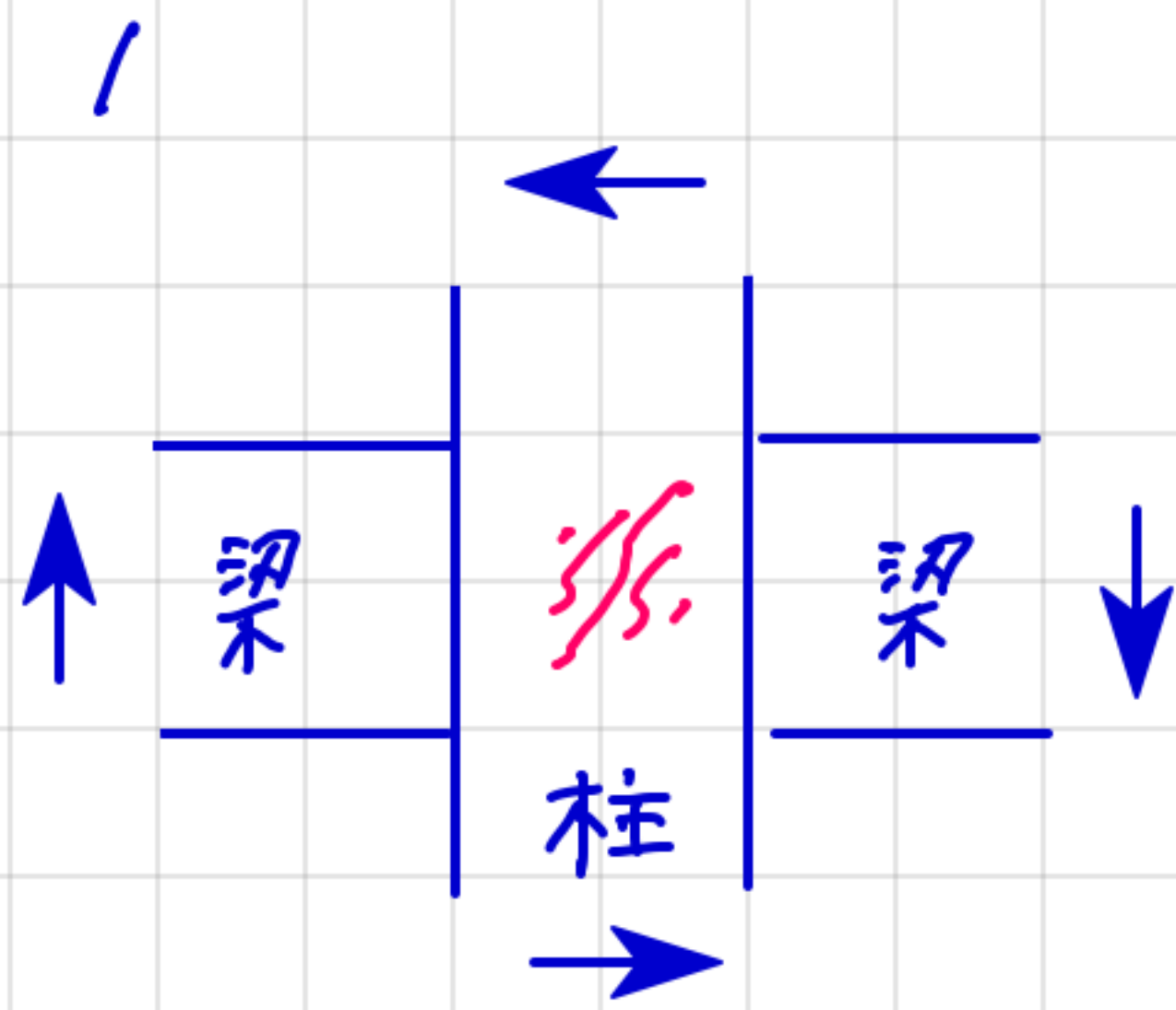


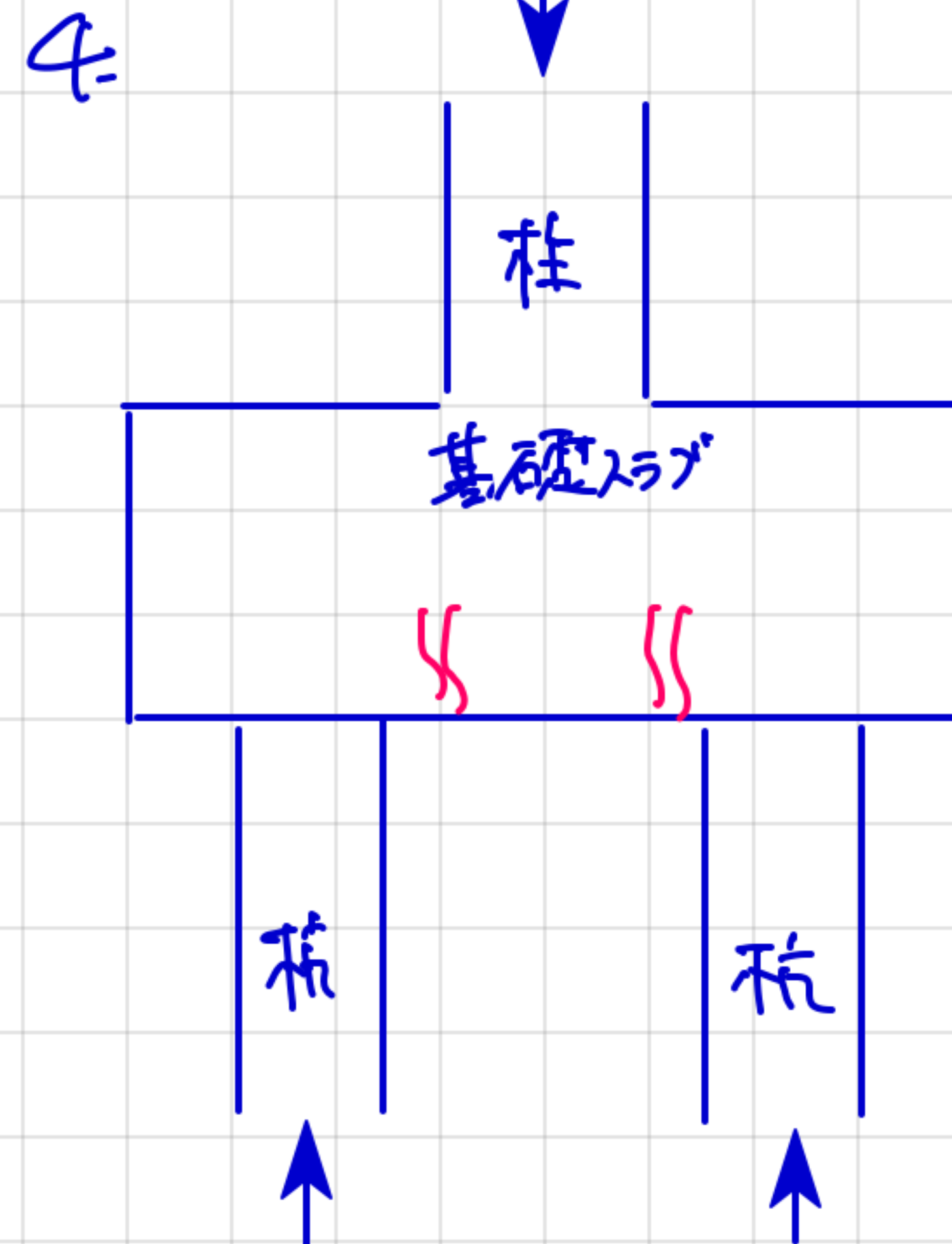
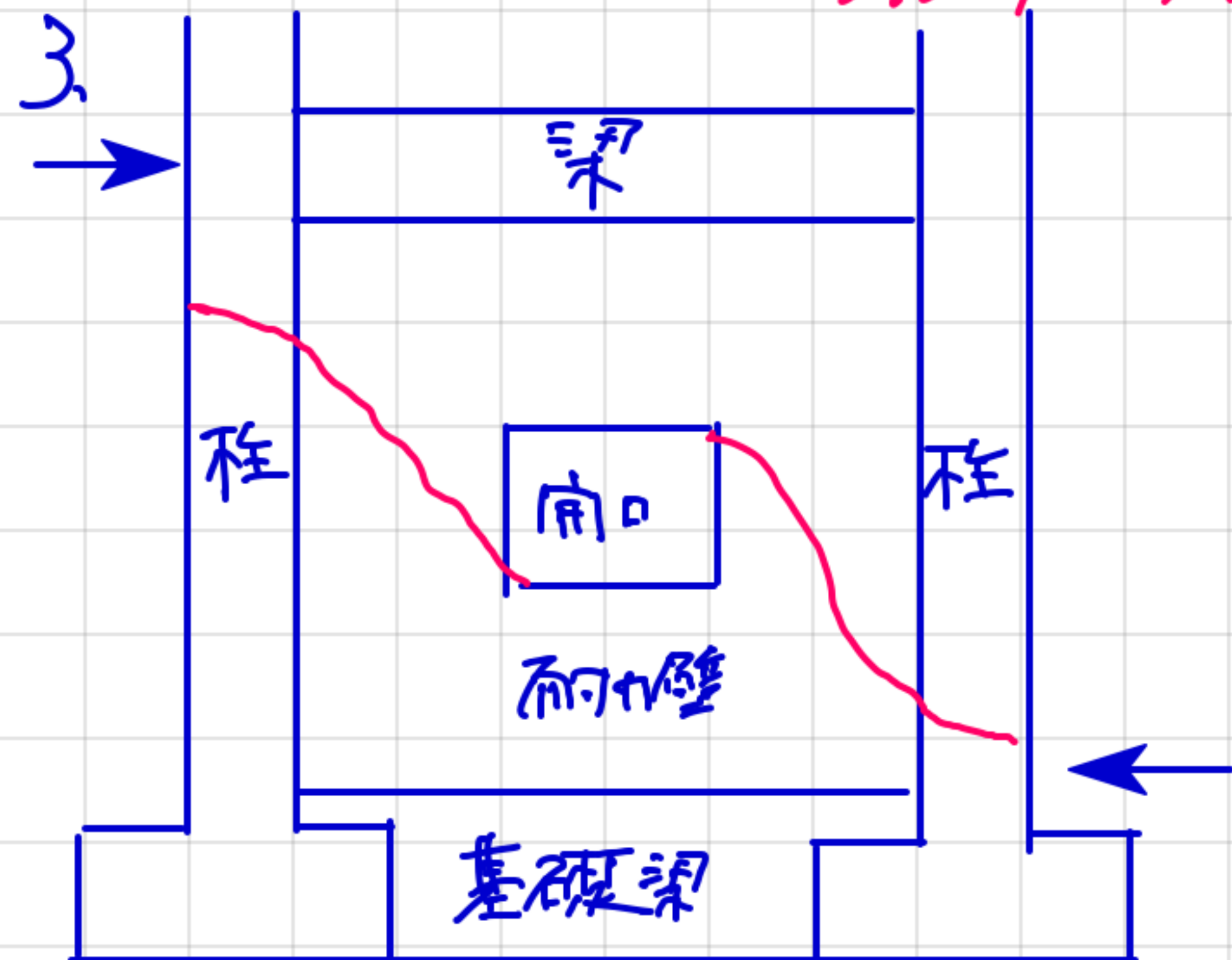
No.11 ひび割れの状況



- ポイント
- ・コンクリートは引張強力は弱い
↳ ひび割れ
 - ・引張強力の方向を見つける
 - ・引張強力に対して直交にひび割れる

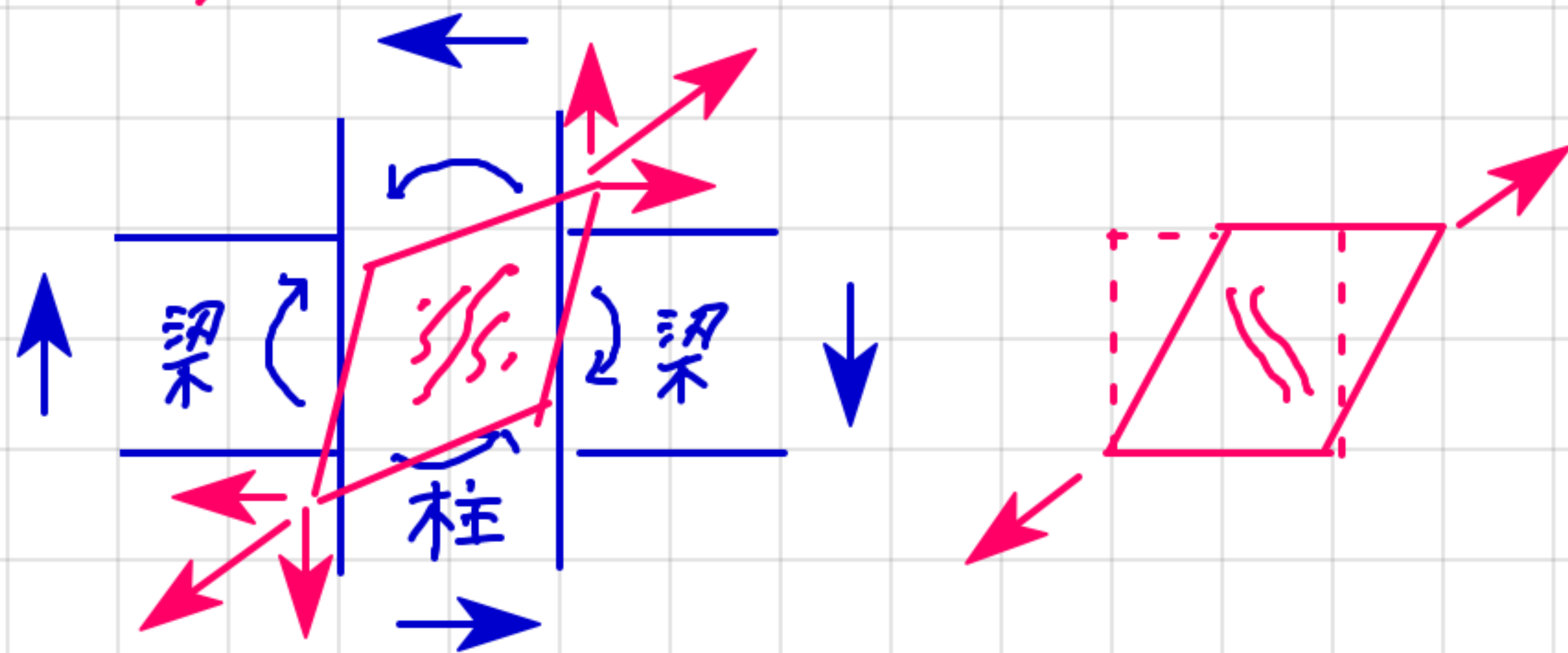


直交にひび割れる

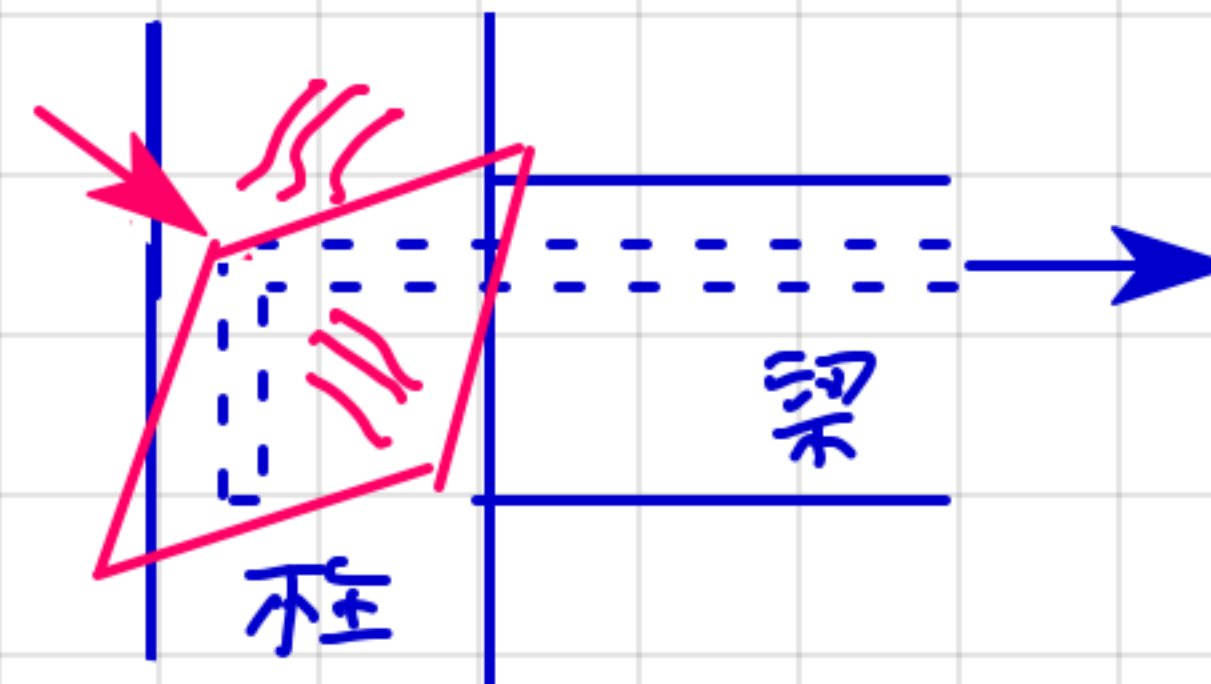


No.11 ひび割れの状況

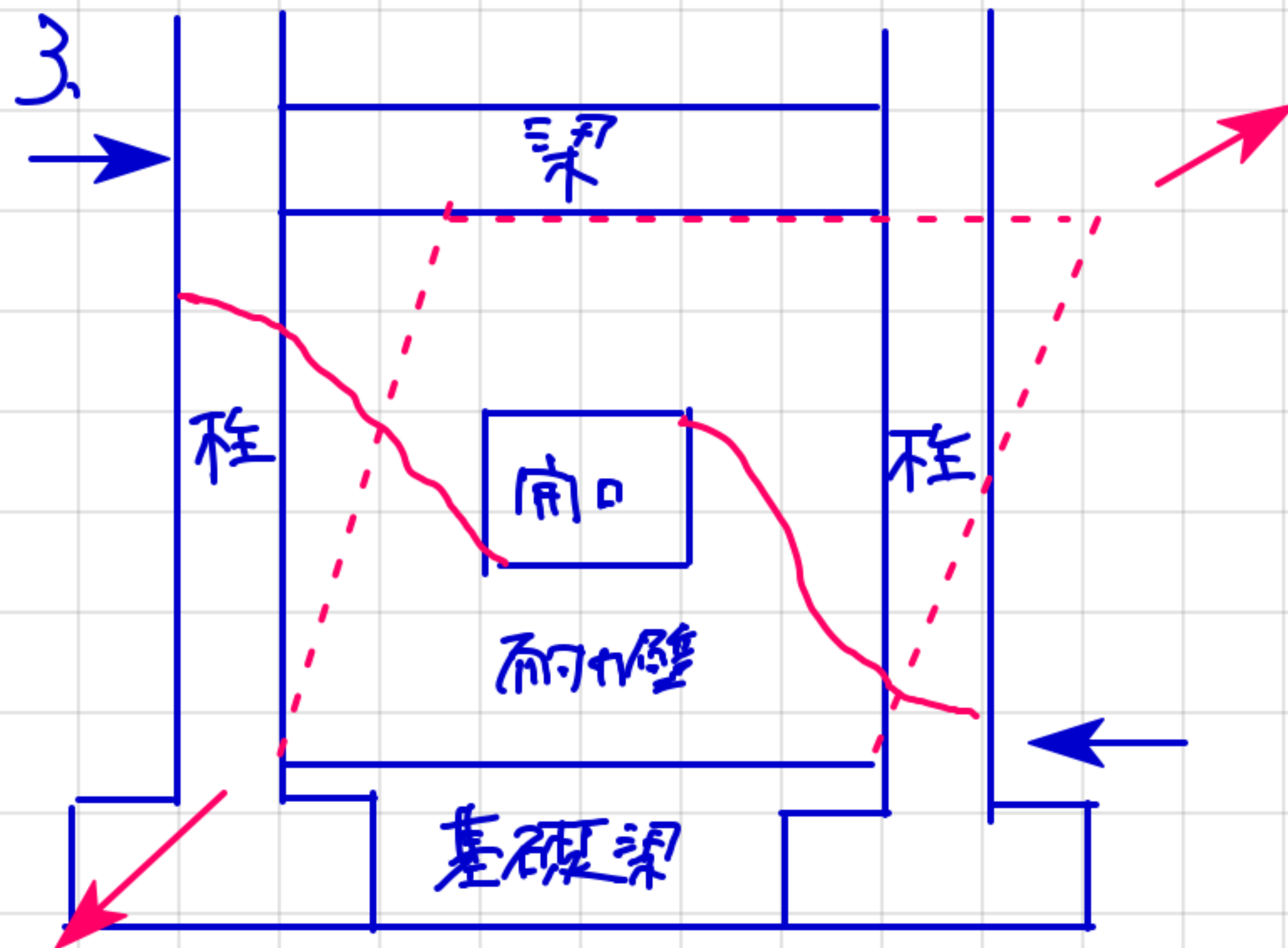
1 X



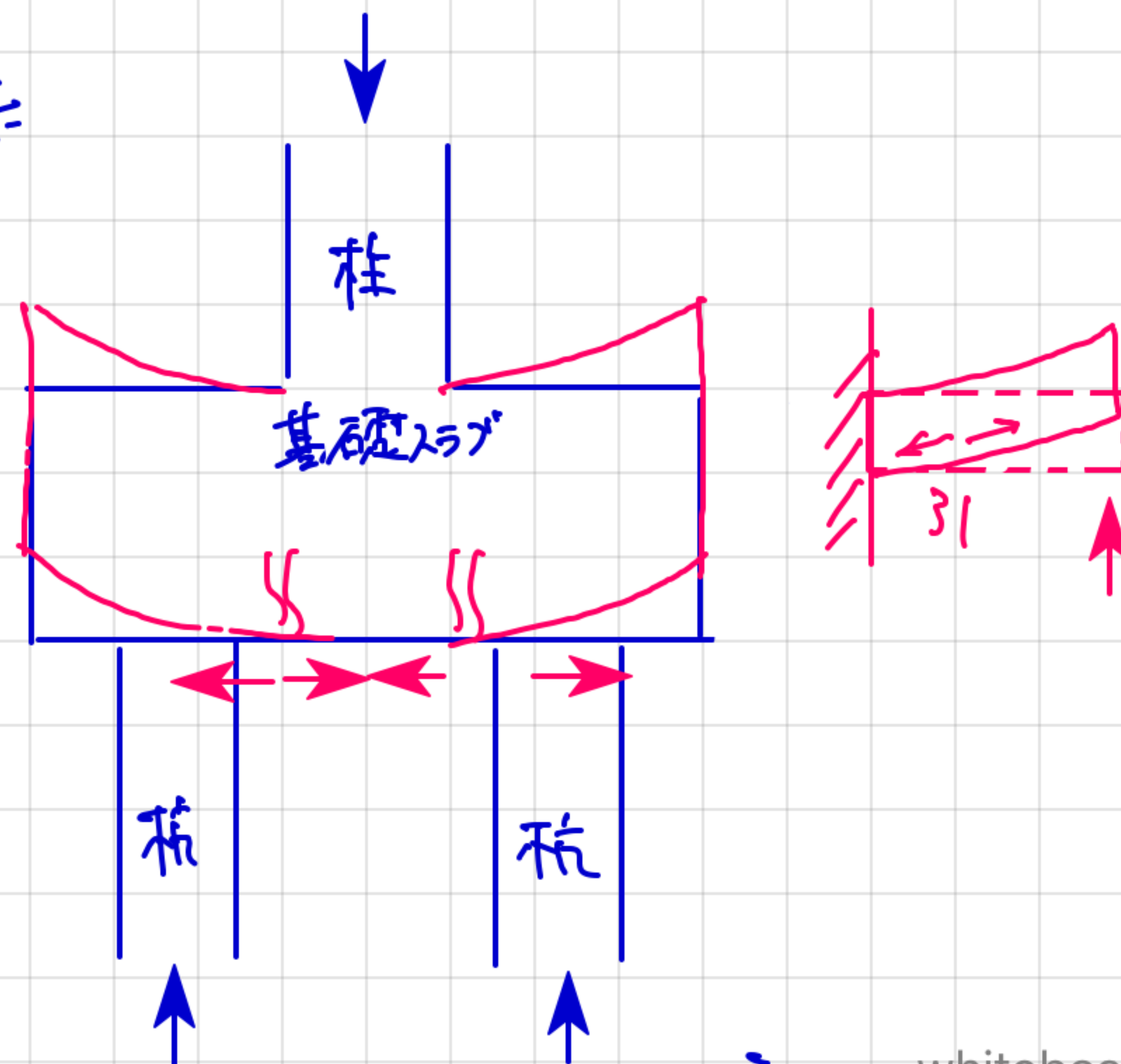
2.



3

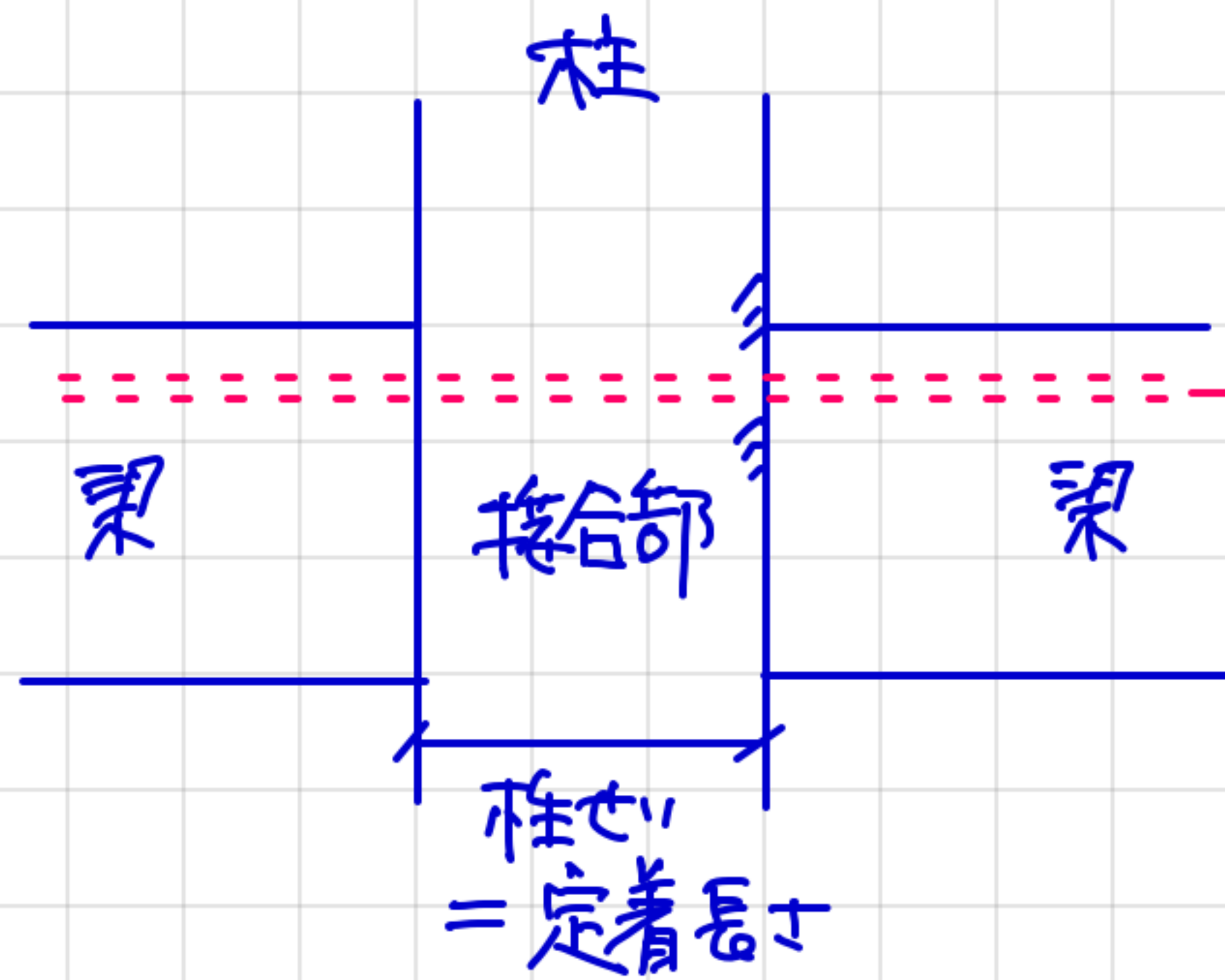
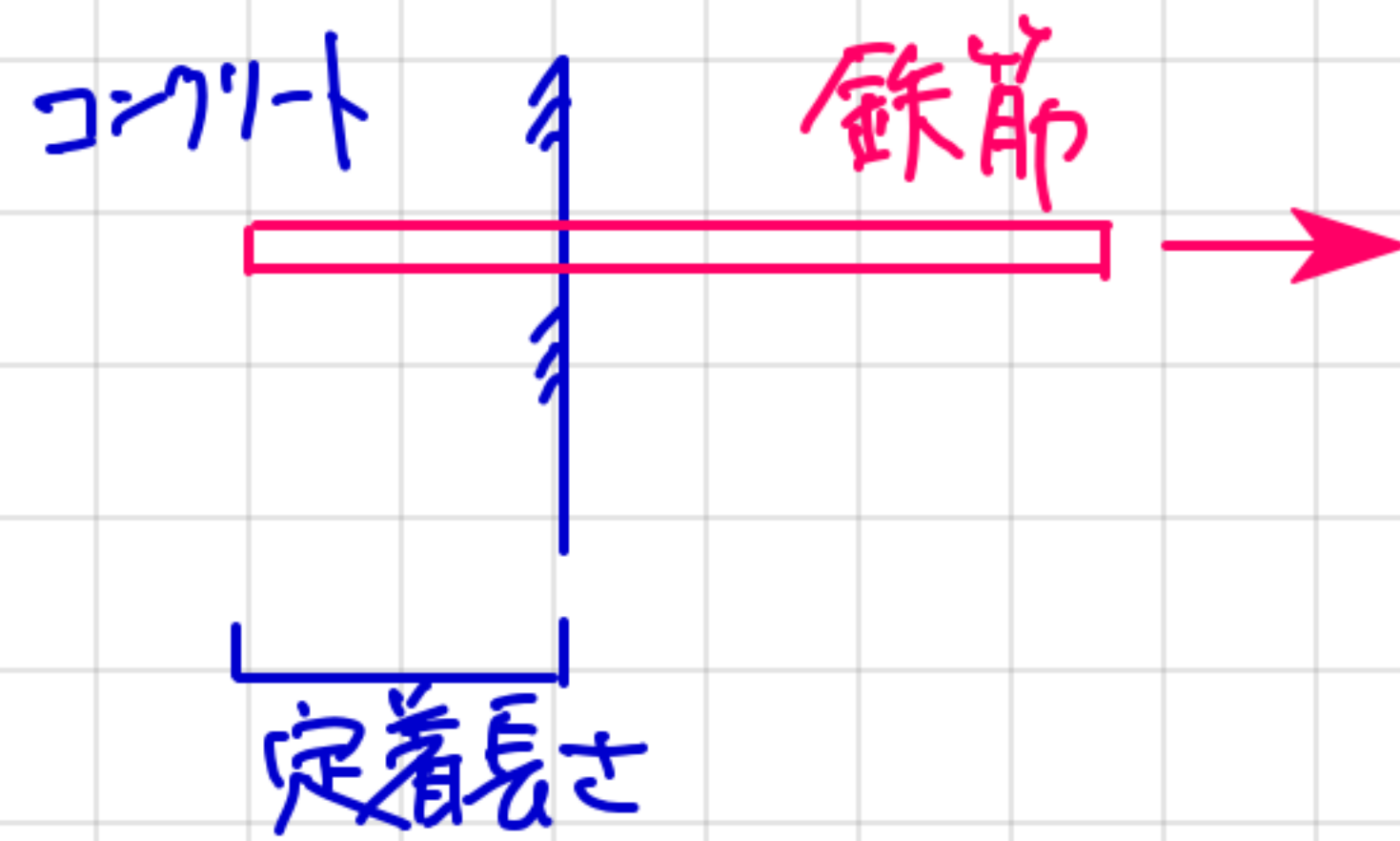


4.



NO12. 鉄筋コンクリート構造

1. 定着



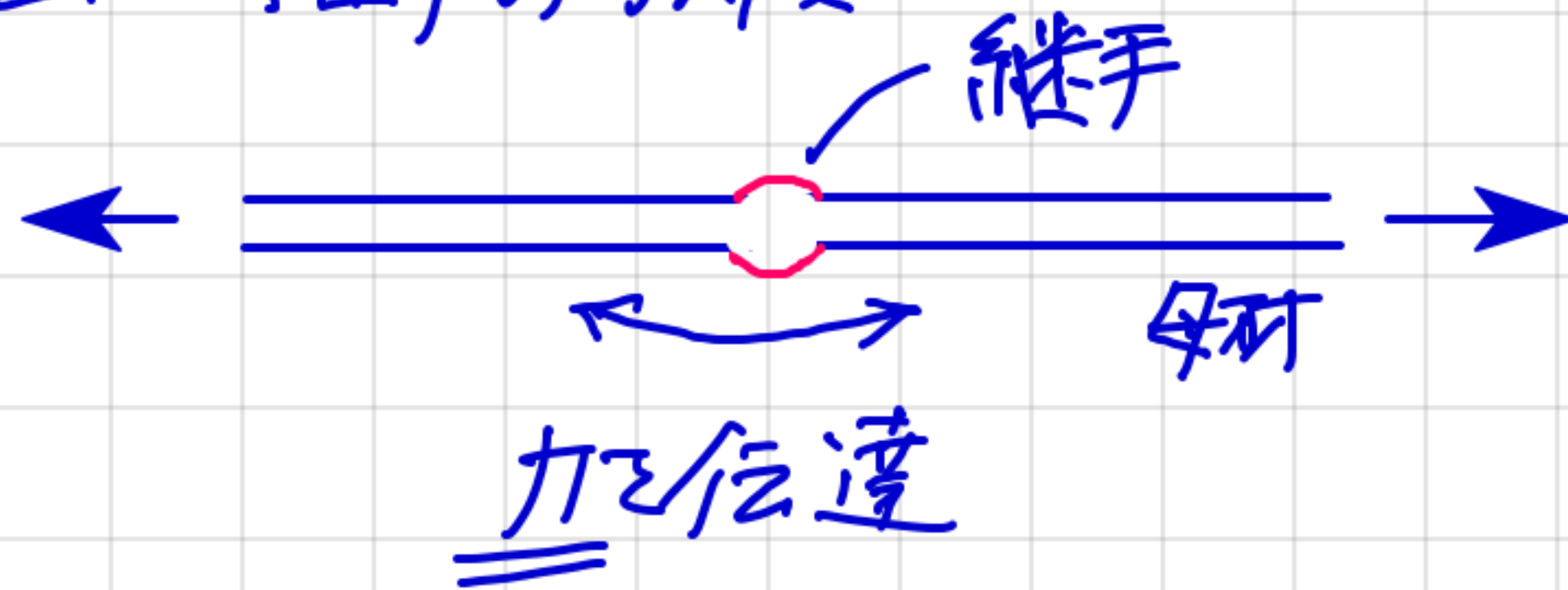
鉄筋強度 大

↓
大きくなり引張力が生じる

↓
鉄筋が抜けやすくなる

↓
定着長さを長くなる

X 2. 継手の強度

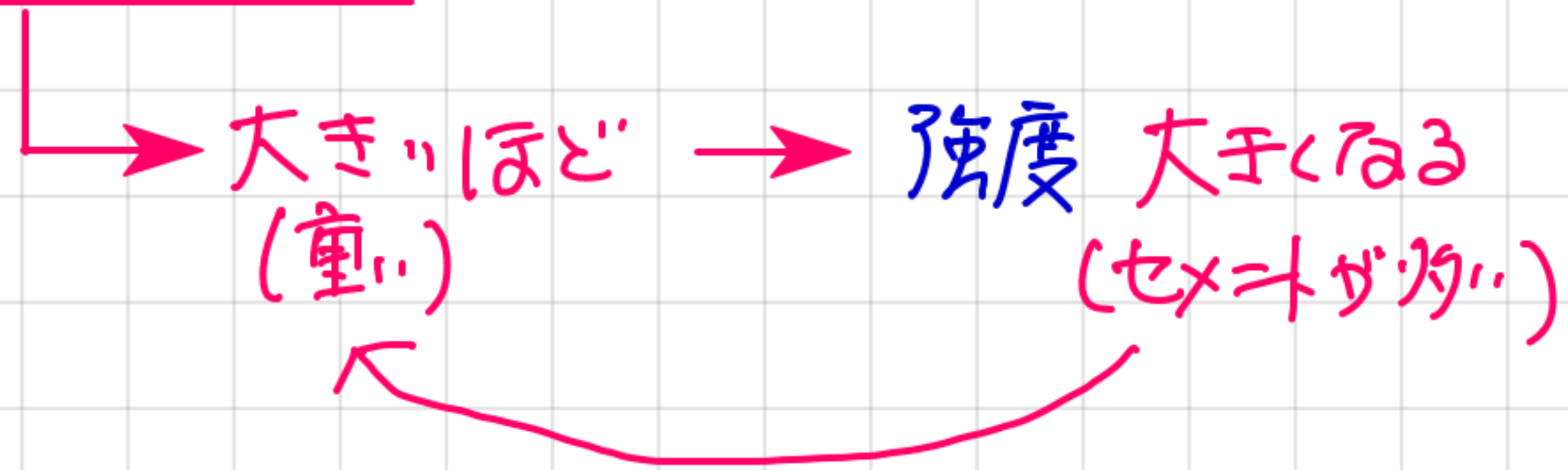


○ 母材の引張り強度 → 母材が破断する力 → 母材が最大耐えられる力 → 生じる力の最大

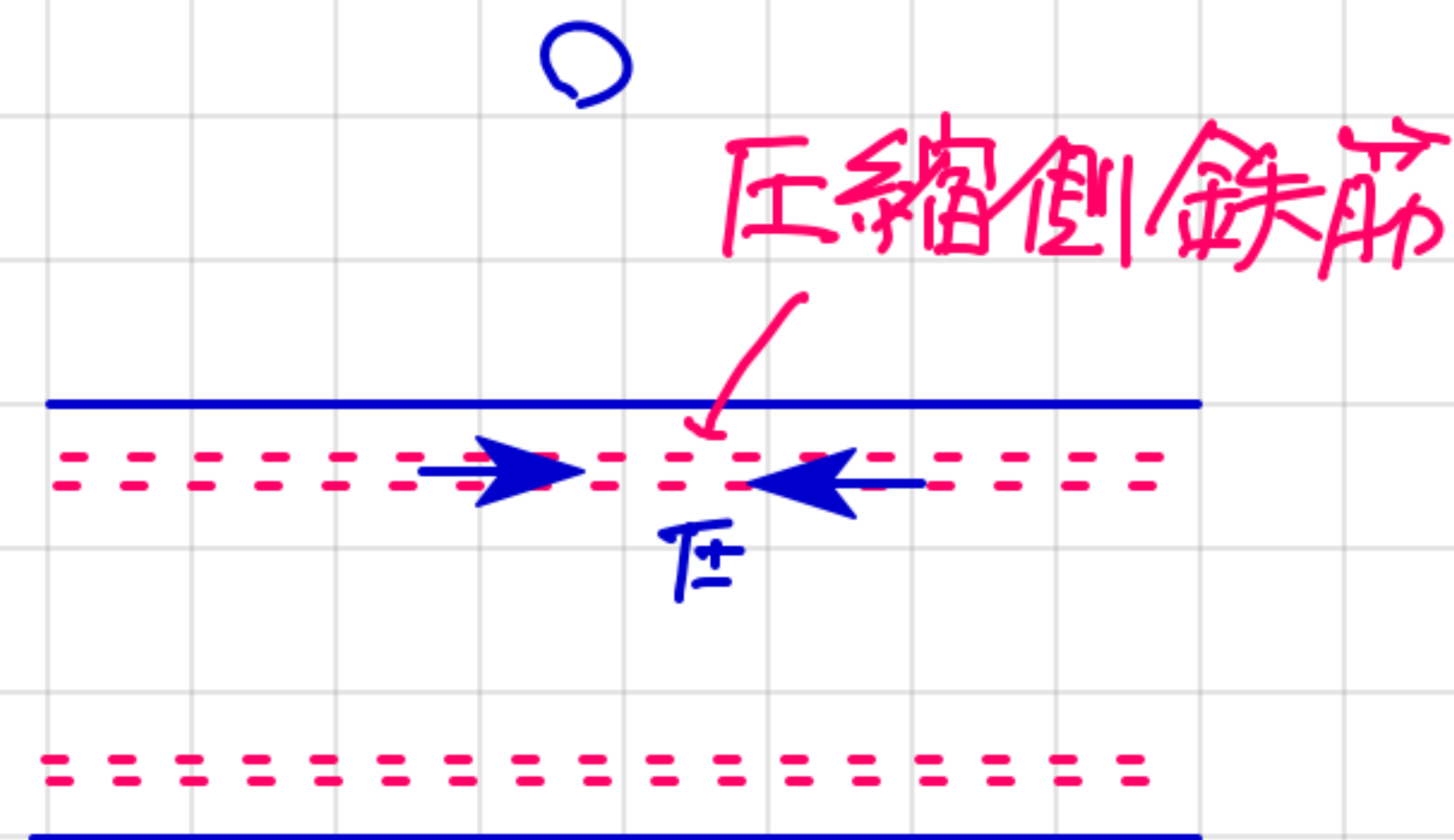
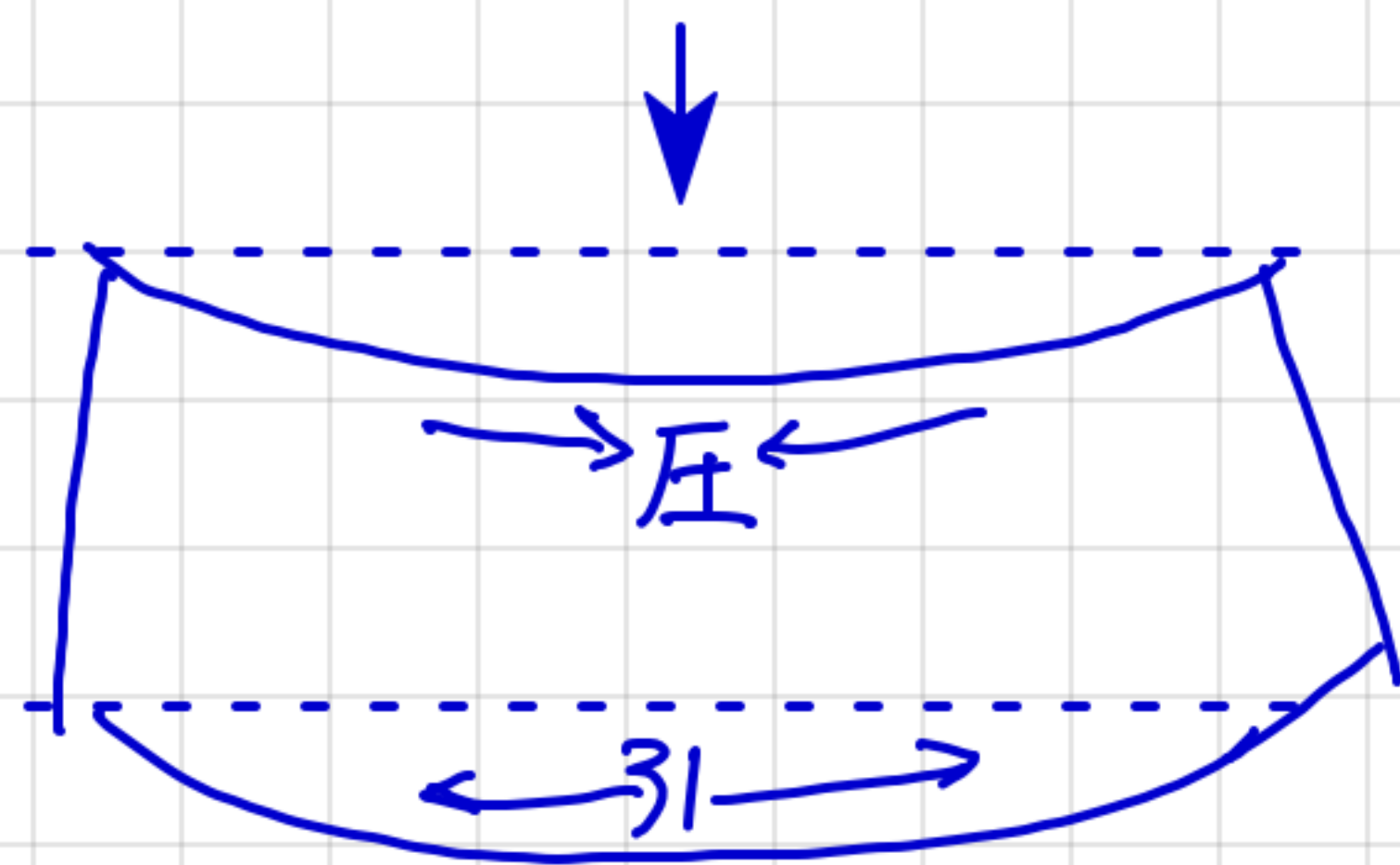
X 存在応力 < 生じる力の最大 存在応力が大きい力が生じる可能性はある

3. コンクリートの 単位体積重量

○ 異なる強度のコンクリート
異なる重量



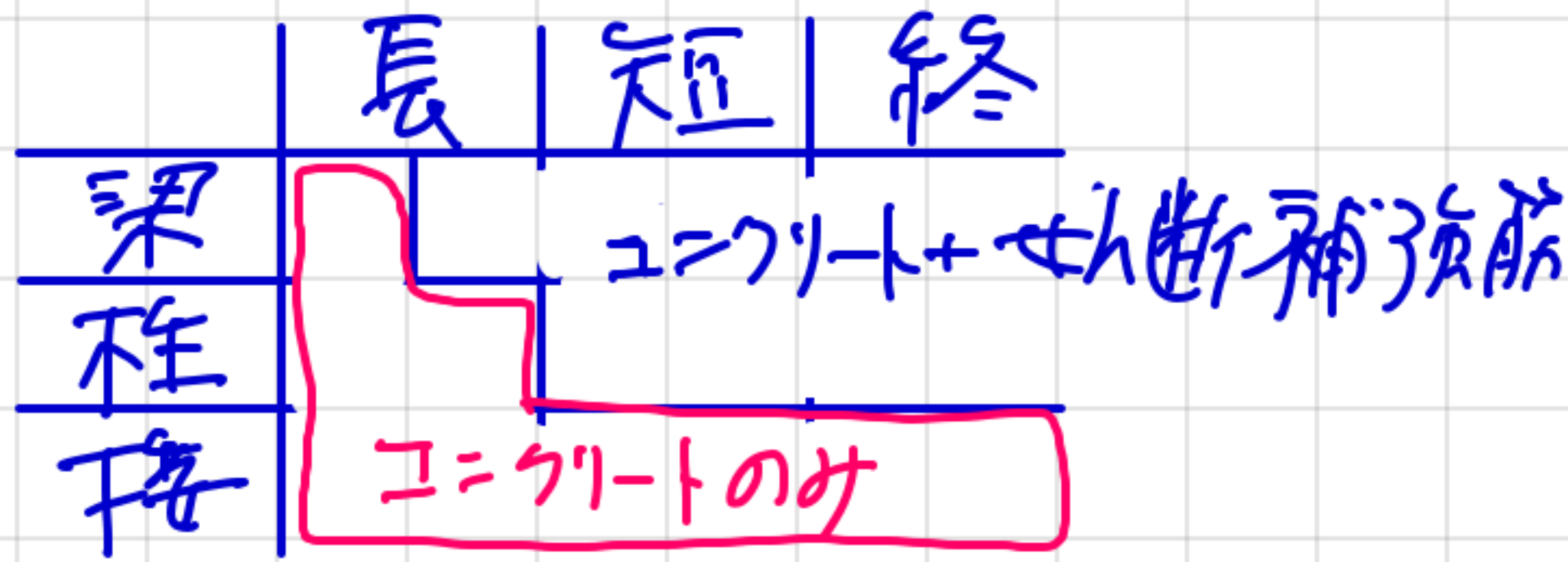
4. 梁の許容曲げモーメント



№13. 許容応力度計算

1. 柱の長期許容せん断力: 帯筋の効果

せん断耐力 / コーリート + せん断補筋 (帯筋, あぼ筋) 量と強度



↓
考慮できる

195
φ

主筋は効果あり

$$295/1.5 = 196 \quad 345/1.5 = 230$$

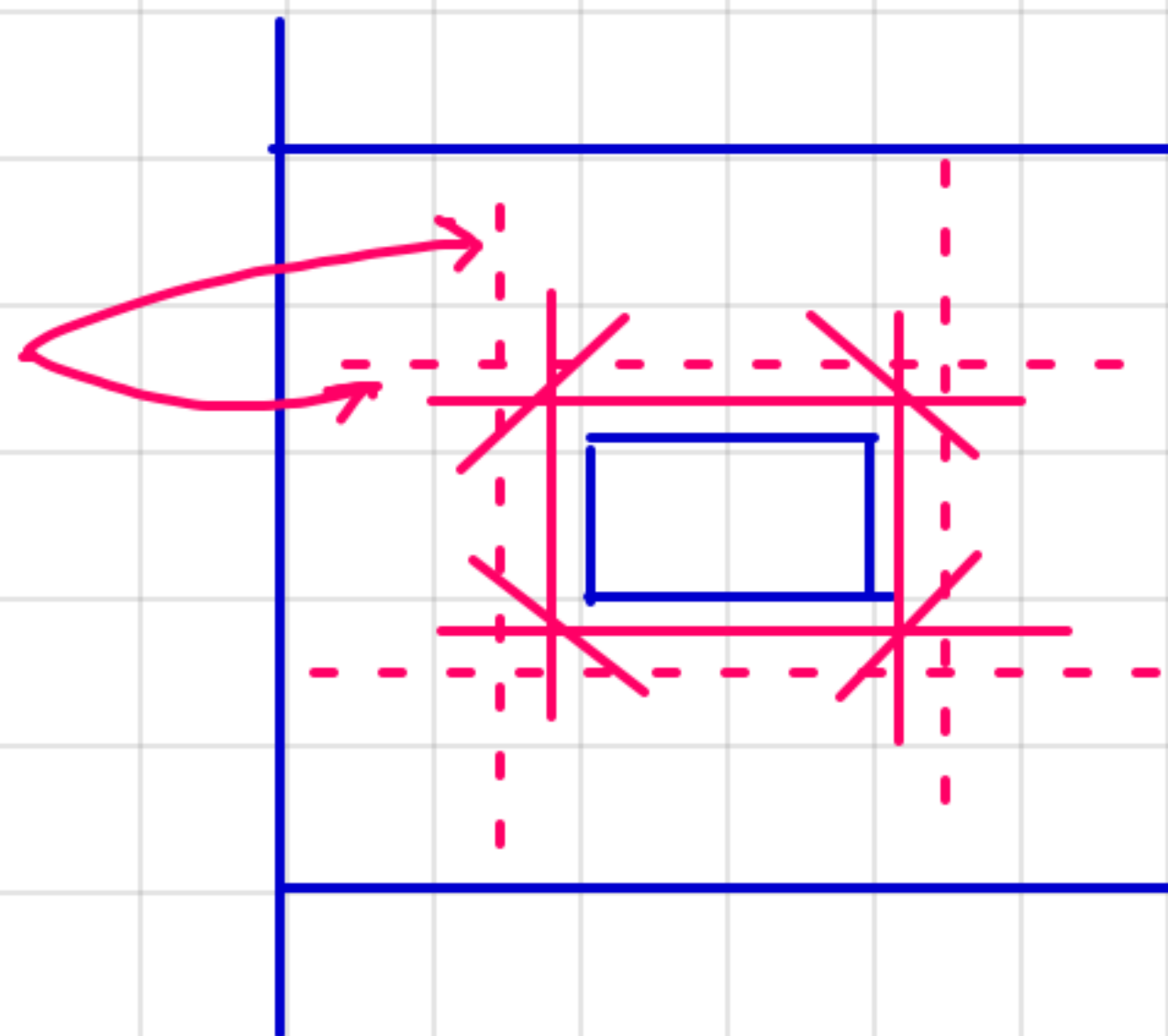
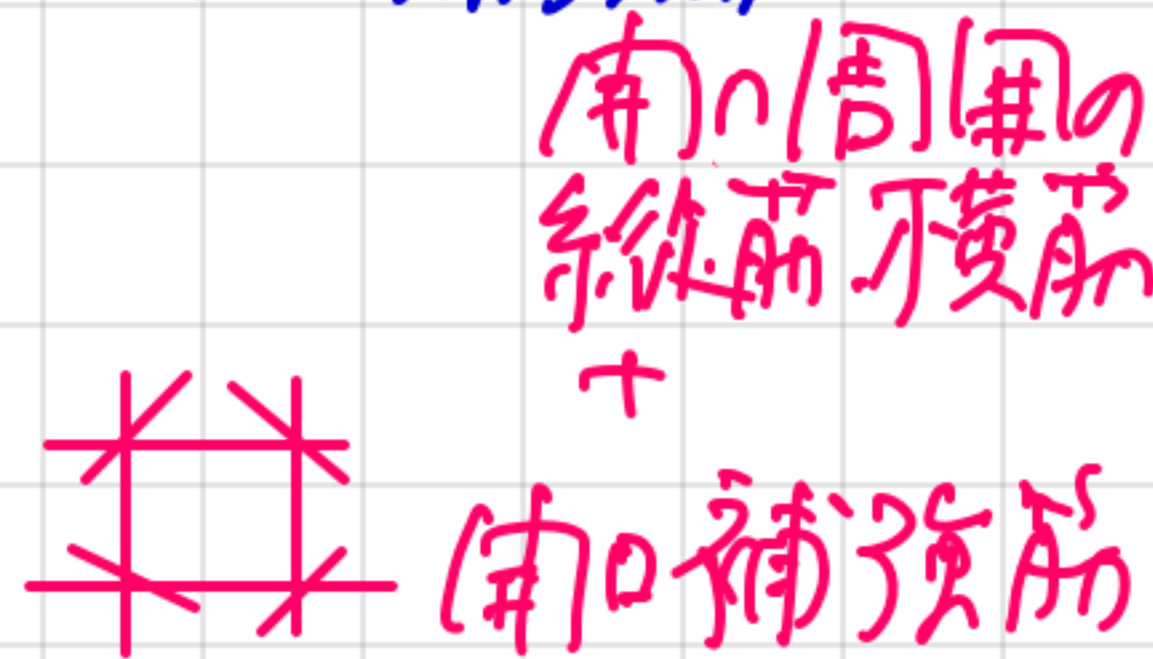
2. 梁の長期許容せん断力: あぼ筋 SD295 → SD345

合 90条

↓
考慮できる
↓
長期耐力
同じ(195)

3. 主筋の効果 → 効果なし

4. (開口補筋)



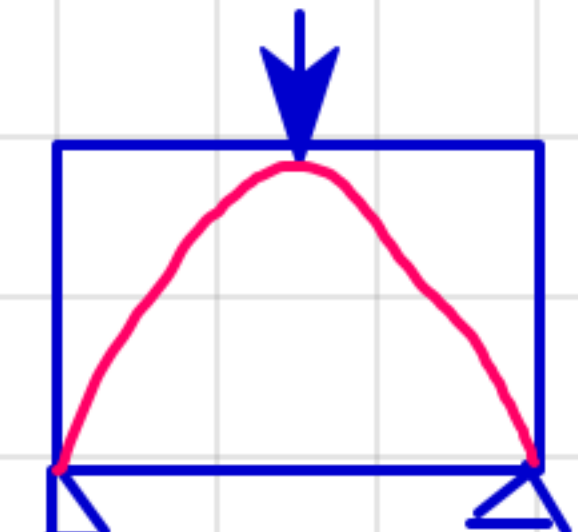
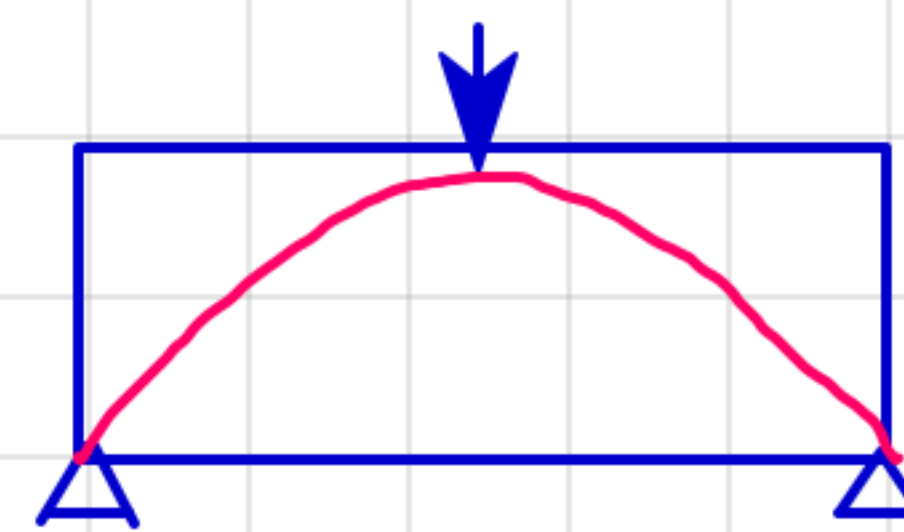
許容応力度種類	長期に生ずる力に対する許容応力度 (単位 1mにつきニュートン)			短期に生ずる力に対する許容応力度 (単位 1mにつきニュートン)		
	圧縮	引張り		圧縮	引張り	
		せん断補強以外に用いる場合	せん断補強に用いる場合		せん断補強以外に用いる場合	せん断補強に用いる場合
丸鋼	F/1.5 (当該数値が155を超える場合には、155)	F/1.5 (当該数値が155を超える場合には、155)	F/1.5 (当該数値が195を超える場合には、195)	F	F	F/1.5 (当該数値が295を超える場合には、295)
異形鉄筋	径 28mm 以下のもの	F/1.5 (当該数値が215を超える場合には、215)	F/1.5 (当該数値が195を超える場合には、195)	F	F	F/1.5 (当該数値が390を超える場合には、395)
	径 28mm を超えるもの	F/1.5 (当該数値が195を超える場合には、195)	F/1.5 (当該数値が195を超える場合には、195)	F	F	F/1.5 (当該数値が390を超える場合には、395)
鉄線の径が 4mm以上の溶接金網	-	F/1.5	F/1.5	-	F (ただし、床版に用いる場合に限る。)	F

この表において、Fは、表一に規定する基準強度を表すものとする。

10014 保有水平耐力計算

1. 梁の靱性 (高) ← 脆性破壊(ない) ← せん断耐力 (大) (せん断破壊) (コンクリート強度 (大))

2. 柱のせん断耐力 (大) ← 内法高 (大)



3-子橋

強..

X 3. 柱梁接合部のせん断耐力 (大) ↑ コンクリート (量・強度) (大) 主筋は効果ない

4. 耐力壁のせん断耐力 (大) ← 主筋 (大)

